

東京浅草中央ロータリークラブ

【週報】平成18年3月8日発信

第980回例会 第966号

会長:中村 義英 副会長:長沼 一雄 幹事:片岡 邦夫 会報委員長:藤野 勝彦

<2005-2006年度テーマ>

・超我の奉仕
・超我の奉仕
・20周年を迎えて、更に大きく『愛』の輪を

RI会長 カール・ウィルヘルム・ステンハマー
2580地区ガバナー 古宮 誠一
クラブ会長 中村 義英

今日の卓話

・・・家庭集会の報告会・・・

◎次回卓話予定(3月29日)

[Service above Self]

弁護士

神崎正陳様

紹介者 植木栄君

<3月の卓話予定表>

3月1日	第1例会・誕生日	弁護士 中央大学名誉教授 小堀憲助様
8日	出席100%	家族会報告
14日	北分区 IM	
15日	休日	IM振り替え
22日	休会	
29日	理事会報告	弁護士 神崎正陳様 紹介者:植木栄君

【お誕生日祝い】お誕生日おめでとう御座います。

大塚 清君(9日)、須藤 宰君(14日)、長沼一雄君(20日)、片岡邦夫君(28日)

平成18年3月1日 第979回例会

【会長報告】 <中村会長>

本日の卓話は小堀憲助先生です。昨年10月19日の折には職業奉仕について、解かり易くお話を頂戴致しました、本日も楽しみにして居ります。

梅の古木贈呈式は雨で中止となり大変残念でした。吉沼社会奉仕委員長のご苦勞に感謝申し上げます。この一週間はフィギュア・スケートの荒川選手の金メダルで日本中が喜んでいました。それにしても日本はいつの間にか女性上位の国になりつつあります、男性諸君！頑張りましょう。

【幹事報告】 <片岡幹事>

夜間例会は欠席致しましたが、東京豊島東RCの20周年記念大会に柿沼前会長と共に出席致しました。会員数は55名ほどで年代層は幅が広く、皆さんがとてもフレンドリィでした、丁度、うちのクラブの20周年と同じ様に心温まる和やかな会合でした。

我がクラブの20周年記念事業の一環でもある梅の古木の植樹式ですが、2月26日は雨天中止となり、皆様に少なからずご迷惑お掛け致しました。今週の金曜日、3月3日雛祭りの日ですが、午後2時より墨田公園の待乳山聖天、向いの梅園に於いて行う事になりました。参加出来る方は極力ご出席頂きたく宜しくお願い致します。

◎ 3月14日(火) I・M 池袋メトロポリタン ホテル 点鐘 14:30 3/15(水)の例会振替となります。

【委員会報告】

【社会奉仕委員会】 <吉沼委員長>

梅の古木贈呈式は 3月3日(金) 14:00 梅園にて簡単なセレモニーを行います。全員出席をお願いします。

【ロータリー情報委員会】 <海内委員長>

来週の例会は家庭集会の報告会を行います。各グループのリーダーは発表の為の準備をして来て下さい、発表の形式はパネルディスカッション形式と致します。

【職業奉仕委員会】 <笹生委員長>

職業奉仕の本質とも言うべき「四つのテスト」を3月はS.A.Aの協力を頂きロータリーソングとしてうたいます。会員各位、より一層の職業奉仕の理解とご認識をお願いします。

【ロータリー財団委員会】 <松本委員長>

2月27日にロータリー財団への寄付をさせて頂きました。人数は27名で、金額は¥1,053,702-です。

2月のRIレートは 1ドル/114円 でした。 ありがとう御座いました。

【米山奨学委員会】 <柘 委員長>

米山奨学委員会を通し会員20名の特別寄付金 ¥675,000-を米山奨学財団に寄付させて頂きました。

来訪者数		例会出席報告	会員出席率
ゲスト1名	ビジター 4名	第979例会	総数49名, 出席45名, 欠席1名, 出席率 97.83%
		第977例会	修正変更後/3名欠席 出席率93.48%(免除 2名)

ニコニコボックス	
<p>■吉沼 君 梅の古木植樹式は雨で中止になりましたが、良い古木が植わって居りました。3/3(金)午後2時より簡単なセレモニーをいたします、都合の付く方は必ず出席して下さい。</p> <p>■岩戸 君 改めて小堀先生のロータリー論に触れて、このクラのスタート前に色々と教えを戴いた時にもっと身を預けておけば良かった、と感じております。</p>	<p>■齊藤、宮村、山尾、松崎、植木、中村、長沼、宮沢、永井、原田、井田、君 チャーターメンバーの方々よりお聞きしておりました、伝説の小堀先生、今回の卓話のテーマを楽しみにして居ります。</p> <p>■須藤、大塚、長沼、片岡、君 お誕生日のお祝いをしていただきき有難うございます。</p>

【卓 話】



「ロータリーの究極にあるもの」
大村北クラブ名誉会員
中央大学名誉教授

小堀 憲助 様

1)はじめに

ロータリーの始祖ポールハリスは思想としてのロータリーの先達者であったが、その晩年の著書の末尾で、「ロータリーの奉仕の窮極にあるものは愛である」と述べている。昨今の理論家たちは、口をそろえて「ロータリーは煎じ詰めれば愛だ」という。今日の卓話はこの辺の事共を解説しようとするものである。

2)ロータリー運動と思想の発生

イ)ロータリークラブは発生から、この100年の愛だに色々な流れがあった。先ず第一に、感情的楽しみのみを、出たとこ勝負で行うという、単なる「職業人の社交クラブ」というやり方がその出発点であった。限定会員制」や「例会出席」も、この思考の枠組の中で考えられた。

ロ)ところが1908年にアメリカで、倫理性の高揚をスクールカラーとしていたミシガン大学のOBで経営者であると同時に経営倫理学者でもあった、アーサーフレデリックシェルドンがシカゴクラブに入会するに及んでクラブの様相が一変する。そもそも入会のその日にポールハリスとシェルドンとの間で長時間激論があったという話が今日まで伝えられている。二人の間には共通の理解が出来上がったのだがこの時“*He profits most who service best*”の思考原型が出来たと言って良いだろう。

ハ)このことはロータリークラブの中の思想の自覚が出来、かつロータリアンの指導者は、その理想の認識に向かって自らを向上させ、その理想の交換の中から、自己の職業の向上を考えたのである。これがロータリーは「職業倫理の向上」を目的とする少数の職業人の社交クラブであると考えられるようになり「ロータリーの親睦」は同僚ロータリアンを互いに師と仰ぎ「自己研鑽」を遂げる「社交クラブ」であるという考え方が一部の会員に定着し、しかもこの種の会員の数が段々と増えることになる。

二)ポールハリスは、この動きを十分に認識しながら、他の会員の動きにも同様の関心をもっていた。要するにそれは「ロータリーよ、お前は一体何者なのだ」ということに帰着する。これは「ポール、お前は一体何者なのだ」ということになり、更にそれはロータリアンに対して自ら「お前は何者なのだ」という事に帰着する。

一人ひとりの生い立ちや、性格が異なるのと同じように、どのように、その認識が深まっても、それは正確に言えば、各人はバラバラなのである。そしてそのバラバラな状態の利潤を、自己の専門分野で挙げて行かなければ成らない宿命を背負っているのであるが、この私利私欲を、単なる私利私欲の追求と考えるのが、それとも私利私欲の間に「他利」の需要、つまり取引の相手方に「信用」と呼ばれる保護膜を入れる努力を加えるかでは、自己の企業の発展と、相手方の満足感の増進、更には地域社会に及ぼす社会効果に大変な変化をまたらす。私利私欲のみで終始すれば、昨今の日本国のように、ウソ・詐欺・殺人が盛んになり、社会は暗くなる。「他利」を中心に「自利」とを調和させれば、両者の調和が

世を明るくする。これをロータリーは理念の世界で「奉仕」と呼ぶのである。

1921年にA. F. シェルドンの「ロータリー哲学」の中で述べた有名な名言“Service to others is an enlightened Self interest : Selfishness is unenlightened Self destruction”は上述のことを哲学的に表現するものである。

3) イ) さてポールにせよ、シェルドンにせよ、またロータリークラブの良心的な会員ならば、上述の発想の背後にあって、この思考を規律する根本概念は何かという点に到達する。

しかしポールにせよシェルドンにせよ、彼等が人間である限り、自己の能力によって限界づけられ、それ以上、又はそれ以外には動きが取れない。そこでポールハ「ロータリーの究極のものは愛である」と断定して口を閉ざすのである。

この種の現象は、孔子にあっては「仁は徳の到れるものなり」と言い、「仁」の属性については一言も語らない。老子系の思考では「絶対無」と呼び、これ以上語らない。

ロ) しかしながら、絶対者の立場からすれば、理想の光は浩浩としてポールや孔子の上で世界から照り輝いてやまない。

しかし人間である聖者には二つの問題点があって、窮極の理解を妨げるのである。その一つは受けとる側に限局性がある、普遍的に会得できない異事である。そしていまひとつの点は、一人一人は現実の世界での指導者に限界性があるということである。

だから、宇宙の光は「来るが如く」、常々我々の良心に迫って止まらない。「大日如来」の思想とは、この辺のことでもを、語り得て妙である。

それから、いかなる賢者も、思想化も、「死ぬまで修行の道」にいるということである。